

平成25年度第1回 北九州市上下水道事業検討会 会議要旨

【日 時】 平成25年8月26日(月) 15:00~16:45

【場 所】 上下水道局大会議室 (小倉北区役所庁舎東棟5階)

【構 成 員】 黒野構成委員、佐藤構成員、武谷構成員、永松構成員、
福地構成員、柳井構成員、吉本構成員 [50音順]

【出席職員】 上下水道局長、海外事業下水道担当理事、総務経営部長、海外・広域事業部長、
水道部長、浄水担当部長、下水道部長、下水道施設担当部長、総務課長、
経営企画課長、下水道経営担当課長、海外事業課長、広域事業課長、営業課長、
計画課長、設計課長、配水管理課長、浄水課長、水質試験所長、品質保証担当課長、
下水道計画課長、アセットマネジメント担当課長、下水道整備課長、施設課長、
水質管理課長
経営企画課 (事務局)

《議 題》

中期経営計画における平成24年度事業進捗管理について

- ① 上水道事業
- ② 下水道事業

《報 告》

- ① 上下水道統合による事務所統合等について
- ② 井手浦浄水場メガソーラ設置について
- ③ 水巻町の水道料金平準化について
- ④ 香春町への水道用水供給について
- ⑤ 下水污泥燃料化事業について

◇議題 中期経営計画における平成24年度事業進捗管理について事務局から説明

◆議題 中期経営計画における平成24年度事業進捗管理に関する質疑応答

(構成員)

具体的に数値化できる事業は、概ねできている、若干できていないというのは判断できますが、水ビジネスの展開など数値化できていない事業についてはどのようになっていますか。

また、ADBの件はカンボジアの国内事情なのか、計画上の問題があったのか、その点も含めて今後の見通しはどうか伺いたい。

(事務局)

水ビジネスについては、9件の案件を獲得しています。それに合わせて新しい案件とか報告できるようなものも含めて9月中には12件という形で報告できるかと思えます。

具体的にいくつか挙げますと、カンボジアでいいますと、カンポット、ケップ市の水道整備事業、コンボンチャム市の実施設計施工管理があります。今後の目標としてはシェムリアップ水道拡張事業などに

取り組んでいきたいと考えています。また、ベトナムにつきましては、ハイフォン市水道におけるBCF整備事業があります。水ビジネスについては、数値目標というより、獲得案件を逐次ご報告させていただきたいと考えています。

ADBの件ですが、ADBが評価した結果、今回は見送りとなっています。これとは別に私どもの方で環境省の新たなJCM案件ということで協議していますので、そういった部分でまた今後も進めていけるのではないかとということで調整中です。

(事務局)

国際水ビジネス・協力を進めていくためには資金が必要になります。そのために様々な機関のプロジェクトに応募して資金を獲得していくわけですが、今回のADB案件は、ADBが自らの事業の優先順位の問題等を考慮し、たまたま事業に至らなかったという状況です。引き続き機会をみて、事業ができるような形で協議を進めていきたいと考えています。

(構成員)

各種団体の出前講演の説明で、計画の60回に対して実績が19回、参考として先程の説明がありました。23年度の100周年のときは63回の実績があった。ここで伺いたいのが、単純に数字だけを見ると3分の1程度で、これはどうかという気がします。ただ、この評価をするときに一つ注意しなければいけないのは、例えば23年度が基準値になっているのかどうか、それ以前の平均的な水準をお聞かせいただき、最近の出前講演の対象先あるいは実際のテーマを2、3例示で紹介してください。というのは、この質問の意図ですが出前講演というのは、広報周知という観点からですので、やればやるほど後年度においてはなかなか余地が少なくなってくるから、こういうような計画に対して実績が落ち込むというのがあるかもしれません。そうした場合に実は過去これまでやってきたこと自体も累積的に判断するとやはりそれなりの効果自体はあったという評価になるかもしれませんし、全然進展していないという評価になるかもしれません。その辺の評価の着眼点として質問させていただきます。

(事務局)

中期経営計画を策定した時の平成22年度以前の数値では大体年7、8回でしたので、60回というのは多めではあった感じはします。しかし、23年度に100周年がありましたので、一つの目標として、主に100周年をテーマとした出前講演を行いました。24年度の出前講演については、回数的に言えば、市全体でも11%程度下がっていますが、水道事業で19回とかなり下がっています。

出前講演の対象団体としましては、市民センターにおける各勉強会や高齢者向けの施設での講義と対象団体が限られてきますので、新たな対象先を発掘しなければいけないという状況を迎えており少し苦労している状況です。それと100周年という非常に分かりやすいテーマであった23年度は目標を達成できたのですが、24年度になってしまいますと、100周年は少し過去のものになりつつあるということで、このような形になっているのかと考えています。それから、24年度につきましては、市全体では、瓦礫受入の関係で他部署が相当数の説明会を行っており、各団体も時間がとれなかったということも一つの要因になっていると考えています。

(構成員)

今、回答いただいたとおりですと、大体納得できるかなという感じです。したがって、今後の方向性はBという形で、若干の改善や工夫を必要な事業としながら、是非継続して進めていただきたいと思います。

(構成員)

60回ですと週に1回行くことにはなりますが、これは厳しいですね。回数も大事かもしれませんが、他の課とタイアップして行うとか、すこし工夫をされたほうが良いかと思います。

(構成員)

数を増やすという意味では、学校とか企業とかも環境教育を行っていますので、一緒に行くのも良いのではと思います。

今までにそのようなことをされたことはありますか。

(事務局)

学校や企業に対して、環境全般になりますと環境局が所管窓口となっていて行っていて、その中で水道という限られた分野になってしまいますが、全くないことはありません。上下水道局で講演先の発掘をする中では環境も非常に重要でしょうが、今の段階では環境分野については、環境局の所管で整理させていただいている状況です。

付け加えますと、小学校3、4年生には副読本を配布し、学校の先生から水道と下水道の仕組み・働きを説明して、水道事業並びに下水道事業の理解をしていただいているという状況です。

(構成員)

下水に関しては耐震化、改築更新及び合流改善等については、概ね順調ということですが、後の計画を見ると当然ながら小口径の管渠の改築はかなり対象が大きいので整備率も31.2%目標、あるいは合流改善についても34.6%目標ということで、今後の事業運営の中で大変だろうと思っています。

(構成員)

下水道の処理水再利用率の向上という項目ですが、計算方法と何に使用しているのか教えてください。

(事務局)

二次処理水量のうち主に浄化センターの機械設備類の冷却水や希釈水に利用しています。また、三菱化学、触媒化成といった民間企業や八幡西区にある洞海バイオパーク等の外部でも利用しています。再利用率は再利用した水量を5浄化センター全体の二次処理水量で割ったものです。

(構成員)

今後、この数値を上げる余地というのはいかがですか。

(事務局)

場内での利用には限界がありますので、今後、場外の利用水量を見直していくことにもなりますが、根本的に何らかのかたちで開発しないといけないとは思っています。26年度末で10%というのは厳しい数値のような気はしますが、その辺については見直し等も検討したいとは考えています。

(構成員)

収入アップを図ってもらいたいので、料金をもらっているのかわかりませんが、下水の二次処理水を利用すると水道を利用して料金をもらうのと、どちらが良いのか考えていただけたらと思います。

(事務局)

下水の二次処理水につきましては水道と競合することはほぼありません。どちらかという工業用水と競合しますが、下水の二次処理水には塩素を含んでいますので、純水を作って使うような工業用水には向いていないため、単純な場内の利用水とか洗浄水とかに限定されます。このため、なかなか増やしていくのが難しい状況です。

◇報告 報告事項について事務局から説明

◆ 全般に関する質疑応答

(構成員)

平成15年度の下水道法改正によって平成35年度までに改善を完了ということですが、このままの進捗状況で間に合うのか教えてください。

(事務局)

北九州市としましては平成17年度から合流改善事業ということで毎年数十億円かけて実施してきています。平成24年度末の改善率は30.7%であり、新たに雨だけを流す雨水管を整備して合流管を污水管とする分流化と、初期の濁った雨水を一時的に貯留する雨水溜水池の整備という2つの手法で合流改善を行っています。今後、平成35年度までの合流改善計画を立て、効果的、経済的な方法を再検討しながら進めていきたいと思っています。

(構成員)

水道と下水道が一緒になって良かったと思います。というのも、下水は大事なことですが、どういう業務なのか分かりにくかったのが、今回分かって良かったです。

質問は、100周年記念のボトルのその後のことです。これは、ペットボトル化するとか、そういう計画は話に挙がらないのでしょうか。

(事務局)

全国的にはボトルドウォーターとペットボトルがあります。最初にスチール缶の話がありましたが、スチール缶は中に錆ができる関係で採用しませんでした。ペットボトルは積み重ねた場合に上からの圧力に弱いというのがあります。アルミ缶でしたら、約6段から8段積み重ねて保管ができる。しかも、中が全く錆ないので、5年間保証できるということでアルミ缶を採用しました。

(構成員)

これは、非常用、災害用という意味を持たせているという理解でよろしいですか。

(事務局)

そもそもこのボトルドウォーターにつきましては、平成23年度の100周年のPR用と備蓄用という形で製造しました。缶にしますと5年間持ちますが、ペットボトルですと2年間しか持ちません。そういったことも踏まえまして、少しでも長い期間保存できるということと、CO₂削減に繋がるということからアルミ缶にしています。

(構成員)

ペットボトルは2年間と短いですが、その中身は水ですから最悪捨てても元は取れると思います。これは、お土産用としてはとても良いと思いますが、実用としては量が少なく重い、ペットボトル2リットルの方が実用としていいと思います。これは私の感想です。

(構成員)

私は、このボトルドウォーターは重いですが、味があるなと思います。それではペットボトル化やコストの面について検討していただければと思います。